

2015年04月21日(Tue) 岡崎研究所

米国の著名な中国学者であるシャンポー・米ジョージワシントン大学教授は、3月6日付けの米ウォールストリート・ジャーナル紙に、「**来たるべき中国の崩壊**」と題する論説を掲載しました。これは、中国専門家の中に大きな波紋を投じました。それは、シャンポーが、今まで中国崩壊論に慎重な立場をとり続けていたからでもあります。論説の要旨は、次の通りです。

すなわち、中国の政治体制は見かけ以上に壊れており、習近平は反対派と腐敗を厳しく取り締まることで党の支配を強化しようとしている。だが彼の独裁政治は中国の体制と社会に強いストレスを与えており、限界点は近づいている。共産党の支配の最終段階はすでに始まっており、思った以上に進んでいる。共産党支配が静かに終わる可能性は小さく、逆に長びき、混沌とした、暴力を伴うものになりそうだ。習近平がクーデターによって失脚する可能性すらある。

体制の脆弱性を示す5つの兆候がある。

- (1) 中国の経済エリートたちはすでに片足をドアの外に出しており、体制が揺らぎ始めれば、大挙して逃げ出す用意ができています。
- (2) 習近平は、政治的な抑圧を大幅に強化している。これは党の指導者たちの不安と自信のなさの表れである。
- (3) 政権に忠誠を誓っているように見える者たちも、実際にはそう装っているだけである。
- (4) 党政機関及び軍にはびこる腐敗は、社会全体に蔓延している。根本的原因は一党支配体制にあるのであり、反腐敗キャンペーンでは問題を解決することはできない。
- (5) 中国経済は、制度的な落とし穴にはまっており、簡単には、そこから脱出できない。党が打ち出した大胆な経済改革パッケージも既得権益層が実施を阻んでいる。

これら5つの亀裂は、政治改革によってのみ解決できる。**現在の政治システムこそが、社会・経済改革にとっての最大の障害となっている。**習近平の「中国の夢」は、実はソ連共産党の悪夢を回避する「夢」でもある。ゴルバチョフと逆の方向で、それを目指そうとしているが、それが唯一の選択肢ではない。江沢民と胡錦濤は、変化を拒否するのではなく変化を管理しようとして、限定的ながらも政治改革を目指した。だが、習近平政権は、政治をゼロサム・ゲームだと考えており、管理を緩めることが統治システムの終わりの始まりと考えている。

中国共産党の支配がいつ崩壊するかを予測することはできないが、現在、我々はその最終段階を目撃していると結論せざるを得ない、と述べています。

出典: David Shambaugh 'The Coming Chinese Crackup' (Wall Street Journal, March 6, 2015)

<http://www.wsj.com/articles/the-coming-chinese-crack-up-1425659198>

* * *

中国の将来を予測することは至難の業です。ただ、シャンポーの挙げた5つの「亀裂」を理由に、中国共産党の統治が崩壊すると結論付けるのは不十分だと思います。

中国共産党の直面する課題は、確実に増大し深刻化しています。しかし同時に、諸課題に対処する共産党の能力も向上しています。Suisheng Zhao デンバー大学教授は、中国の近代は中央政府の“権威”を確立するプロセスそのものであり、習近平の昨今の動きも、この流れの中にあると言っています。中国では、権力が集中されないと、何もやれないのです。

だから習近平は、腐敗問題を使って権力を集中してきました。それほど中国の現状は、多くの、しかも大きな改革をあらゆる面で行う必要があるのです。鍵は、習近平が権力をどこまで集中でき、その権力を使って「改革の全面的深化」(2013年党中央委員会決定)をどこまでやれるかにかかっています。基本は、持続的経済成長が可能かどうかであり、司法改革も、環境対策も、社会福祉も、そのための環境整備の側面が強いです。目標の2020年までに良い結果を出せれば、共産党統治は、逆に安定するでしょう。

現在の一連の改革をある程度終えても、共産党は、今度は発展した国民社会と一党支配との関係をどうするのかという根本的な、もっと困難な問題に直面せざるを得ません。まさに政治改革という巨大な課題に直面せざるを得ないのです。それは、習近平が鄧小平を越えることができるかどうかという次元の問題でもあります。

問題の深刻化のスピードが、共産党の能力向上のスピードを上回れば、共産党の統治は終わるのだと思います。シャンポーは「中国共産党の統治の最終段階を目撃している」と言っていますが、いつその最終段階が本当に終わるのかについては、現時点で予測できないし、シャンポーが思っているよりは遅くなるでしょう。